

2018 スーパーGT 第1戦
岡山国際サーキット
2018年 4月7日(土)

予選 来場者: 10,700人 天候: 曇り時々雨

2018 スーパーGT シリーズ第1戦が今年も岡山国際サーキットから幕を開けた。au TOM'S チームは、中嶋一貴と新加入の関口雄飛がコンビを組んで今シーズンを戦う。春から一気に冬に逆戻りしたような低気温となったサーキット周辺の気象状況によって予想外の苦しい展開に巻き込まれ、GT500 クラスの15台中14番手のグリッドから決勝をスタートすることとなった。



- 午前中に行われた練習走行の終盤に突然雨が降り、一時コースはウエットコンディションとなった。
- 練習走行の後に行われたファンサービスのサーキットサファリを関口が走行中、ハーフウエット路面でスピン。マシンの後部を大きく破損したが、メカニックの迅速な作業によって、予選までに完全に修復された。
- 予選 Q1 は、ドライコンディション。関口がステアリングを握ってコースイン。練習走行時のタイムは更新することはできたものの、Q2 進出を果たせるトップ 8 に入ることはできずに予選を終えてしまった。
- 中嶋には、予選タイムアタックのチャンスは無かった。

| Drivers | Car No. | Qualifying 1 | Qualifying 2 |
|---------|---------|--------------|--------------|
| 中嶋 一貴 | 36 | P14 | |
| 関口 雄飛 | | | 1:19.108 |

| | | |
|---------|---------------|-------------|
| 天候/路面 | 曇り時々雨/ドライウエット | |
| 気温/路面温度 | 気温: 9-7度C | 路面: 15-12度C |

中嶋 一貴 (36号車ドライバー)



「今シーズンは、合同テストの段階から苦しい状況でしたね。ファインセットを見出すことができずに開幕戦を迎えています。マシンは確かに進化しているのですが、しっくり来ないというか、セットアップを思うように合わせ込めていないのです。路面温度がとても低くてタイヤのゴムが温まらないし、内圧も上がらないので、思っていたパフォーマンスが発揮できません。GT500 クラスの後ろから数えて二つ目のグリッド。どこまで順位アップができるか…。テストでのロングランは悪くはなかったのですが、決勝は頑張るしかないですね」

関口 雄飛 (36号車ドライバー)



「サーキットサファリ走行中でクラッシュしてしまいました。攻めていたわけでは無かったのにマシンが滑ってしまってスピンしてしまいました。メカニックさんたちの働きでマシンの修復が予選に間に合って良かったです。感謝しています。マシンのセットは悪くはないと思います。でも予想外にタイムが出ないので、自分自身ビックリしています。ポイントゲットできるように決勝レースを頑張ります」

東條 力 (36号車エンジニア)



「結果として、トムスの2台ともにダメな予選でした。マシン自体は昨年より良くなってきているのですが、相対的にライバルの進化がわれわれよりも素晴らしかったということですね。コンディション、路面温度が低かったということは、われわれに限ったことではなくて全てのマシンにイーブンなので、われわれがコンディションに合うセットアップを出せなかった、その結果ですね。決勝は、なんとかポジションをあげて、2ポイントか3ポイントを獲得することを目標としたいですね」

伊藤 大輔 (36号車チーム監督)



「苦戦するだろうとは思っていたけれど、ここまでの苦戦とは予想外でした。テストの段階からメーカー間の戦いも僅差だったから、ちょっとしたコンディション変化で結果が変わる状況の中、レクサス勢が全般的に苦しんでいて、その中でもウチが一番苦戦していますね。朝のクラッシュは、マシンの外側だけを破損していたので、それが悪影響はしていません。ドライバーのコメントとしては、<しっくり>するまでセッティングをまとめ切れずにいます。昨年に比べてマシンとタイヤのマッチング状況がピーキーになっているのでしょうか。うまくスポットを探し切れずにいます。現段階では、ハード面では限られているので、あとはドライバーたちの頑張りに期待して、しぶとく走って完走、ポイントゲットですね」

舘 信秀 (総監督)



「マイッタ。どうしちゃったのでしょうかね。コンディションにマッチしなかったと言っても、同じLC500とブリヂストンタイヤのパッケージでわれわれの前にいるチームもあるわけですから、決勝に向けてチーム総員で順位をアップするべく努力するしかないですね」

LEXUS TEAM au TOM'S

決勝

来場者: 17,700 人

天候:曇り時々晴れ

岡山国際サーキットで行われた 2018 スーパーGT 第 1 戦において、au TOM'S チームの 36 号車は、序盤から苦しい展開の中でラップを重ねて 13 位で初戦を終えた。



- 新加入の関口雄飛がスタートドライバーを務めた。
- スタートの混乱の影響を受けて 1 周目は、ひとつ順位を下げて最後尾に後退。徐々にペースアップして順位を挽回した。
- レースが進むにつれて、コース上のマーブル(タイヤカス)がタイヤトレッドに付着して、苦しい走行を強いられた。
- 42 周目にピットインして中嶋一貴に交代。GT300 クラスのマシンをパスしようとした際に、接触を避けてコースオフするシーンもあったが、ダメージなく、レース続行。終盤に GT500 クラスの GT-R との攻防を制してゴールした。

| Drivers | Car No. | Race Result / Fastest Lap | |
|---------|---------|---------------------------|----------|
| 中嶋 一貴 | 36 | P13 | 1:21.618 |
| 関口 雄飛 | | | 1:21.871 |

| | | |
|---------|-------------|----------------|
| 天候 | 曇り時々晴れ/ドライ | |
| 気温/路面温度 | 気温:11-10度 C | 路面温度: 22-18度 C |



中嶋一貴 (36 号車ドライバー)

「ほぼ最後尾からのレースでしたから、容易に順位をあげられないのは覚悟していたのですが、本当に大変なレースでしたね。GT300 クラスのマシンも含めて常に他車と並走したり、押し込まれながら(笑)パスしたりという忙しい状況でした。それでも、終盤にタイヤとのマッチングが良くなると、ペースはトップグループと比較しても遜色はなかったと思います。次戦は予選で頑張って、上位から決勝をスタートしたいですね」

関口 雄飛 (36 号車ドライバー)

「初戦は、大変難しいレースでした。後ろからのスタートでしたから、思うようなラインを走ることはいけないうし、そうするとコースのゴミやタイヤカスをトレッドが拾ってしまって、グリップが落ちてペースが上がらないという本当に厳しいレースでした。次戦は、予選から決勝まで、岡山のようなことがないように頑張りたいです」

東條 力 (36 号車エンジニア)

「ポイントを取りたいと思っていたのですが、予定通りにはゆきませんでした。すみません。比較的コースの狭い岡山の難しさがはつきりと出た初戦でした。関口選手は、まだタイヤの使い方に苦しんでいました。やはり、昨年まで乗っていた他社のタイヤとのキャラクターの違いがあるので、早く慣れていただき、パフォーマンスを示して欲しいですね。一貴選手はさすがにトップとほぼ同じペースで走行してくれて、マシンに問題はないことを証明してくれているので、次戦、富士では、ハンディ・ウエイトはゼロですから、上位を狙えると思っています」

伊藤 大輔 (36 号車チーム監督)

「苦しい展開を打開するまでに至らない初戦決勝でしたね。14 番手から何位まで順位アップをできるか楽しみにしていたのですが、結果的にひとつアップできただけでした。自分が現役当時、この岡山は GT300 クラスのパッシングはともにも難しかった。結構 300 クラスも速いですから、本当に大変なんです。関口は、まだタイヤに慣れていない部分があって、今後は早く慣れることが課題ですね。第 2 戦から仕切り直して、36 号車の勇姿をお見せしたいと思います」

館 信秀 (総監督)

「14 位スタートから 13 位フィニッシュ。もちろん、満足ではありません。この位置を走行するためにシーズンオフからテストを重ねてきたわけではないですから。第 2 戦の富士は、トヨタさんのホームコースでもあるので、恥ずかしくない予選、決勝をお見せできるようにしたいです」

※次戦は、5 月 3-4 日(祝)に静岡県の富士スピードウェイにてシリーズ第 2 戦が開催されます。